

第2回学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 益田清風高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和7年11月13日(木) 13:10~15:10
- 3 開催場所 益田清風高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会 長	森本翔太郎	馬瀬建設株式会社 専務取締役 (欠席)
委 員	中村 好一	下呂市教育長 (欠席)
	皆越 眞佐代	NPO飛騨小坂200滝 (欠席)
	向野 優子	NPOみらいろ理事長 (欠席)
	大坪 孝弘	下呂市萩原振興事務所長
	河村 治代	下呂看護専門学校長
	佐野 ちあき	ホテルくさかべアルメリア職員
	長尾 伴文	ぎふ夢教育応援隊
	前田 芳隆	前小坂中学校長
	中川 勇	育友会長
学 校 側	小田 正人	校長
	青木 穰	事務長
	石丸 浩国	教頭
	井田 誠	教務主任
	上田 界堂	進路指導主事
	角川 公太	特別活動部長

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 学校の様子について
- (2) 来年度のスクールミッションについて
- (3) 意見交流

- 意見1・子供が前向き 少人数のよさを広げる工夫したらよいのではないか。
- ・小中学校 タブレット活用をして、個の力を伸ばす個別最適な支援や指導をしている。
 - ・小中学校でつけた力を小中高が連携して高めると良いのではないか。
→下呂市はメタ文字を授業で活用しているので連携しやすい。
 - ・小中学校へ授業研究を高校の教員にもしてもらいたい。
 - ・退学転学、不登校が少ない→下呂市全体が減少傾向(小中学校も含めて)
→小中高が連携することでさらに減少させられるのではないかと。また、ニコリエの支援センターでの受け入れ体制があるため活用・連携できるとよい。
- 意見2・それぞれのクラス・学年ごとに違った授業のあり方が分かった。
- ・少人数で数人の教員のサポートがあるのがよい。
 - ・どの生徒も穏やかな雰囲気の中で授業を受けている。

別紙様式 3

意見 3 ・一人ひとりが一生懸命に取り組んでいる。

- ・一方通行ではなく、フォローをしながら授業を行っている。
- ・教員と生徒との距離感が近く、生徒に合わせた声のかけ方をしているため、安心して授業を受けることができる。
- ・専門学校では、グループワーク中心であり、そこが高校との違いだと思った。

意見 4 ・教室掲示に生徒自身の目標を書かせたものを掲示している。→生徒が目的をもって生活できる。

- ・生徒がどのような興味で授業を選択しているのかが気になった。

意見 5 ・教室掲示に生徒自身の目標を書かせたものを掲示している。→生徒が目的をもって生活できる

- ・生徒がどのような興味で授業を選択しているのかが気になった。

意見 6 ・タブレットで双方向での授業にすることで生徒の進度がわかる。→生徒に合わせた支援と指導が可能である。

意見 7 ・子どもの人数が少ないことを利点にするよう考えてはどうか。→（例）机を広くするなど環境を整え、生徒がもっと学びやすいようにする等。→学校の特色にしていく。

6 会議のまとめ

令和 7 年度第 2 回学校運営協議会が開催され、授業参観の後、学校の現状報告と委員・職員による意見交換を行いました。また、今年度実施予定の炊き出し訓練については計画を確認し、全委員から理解と承認を得ました。

協議では、高校の魅力ある学校づくりを進めるための方策について活発な意見交換が行われました。特に、生徒と地域、関係機関との連携を強化し、地域と協働する機会を増やすことの重要性が確認されました。さらに、高校生の活動を積極的に中学生や地域に発信することで、入学希望者の増加や学校全体の魅力向上につながるとの認識が共有されました。

以上の協議を通じて、炊き出し訓練計画の承認、地域連携・協働の推進、高校生の活動発信強化という方向性が確認されました。